

# ハルニレぼっぼ

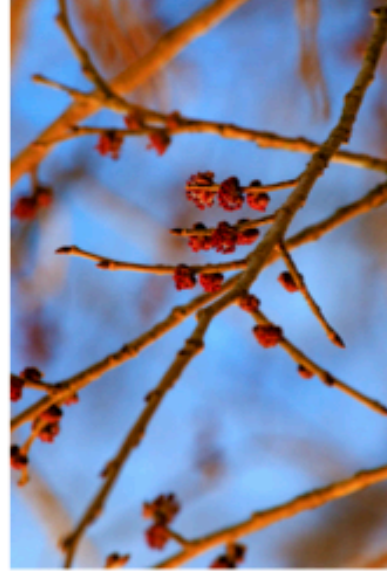
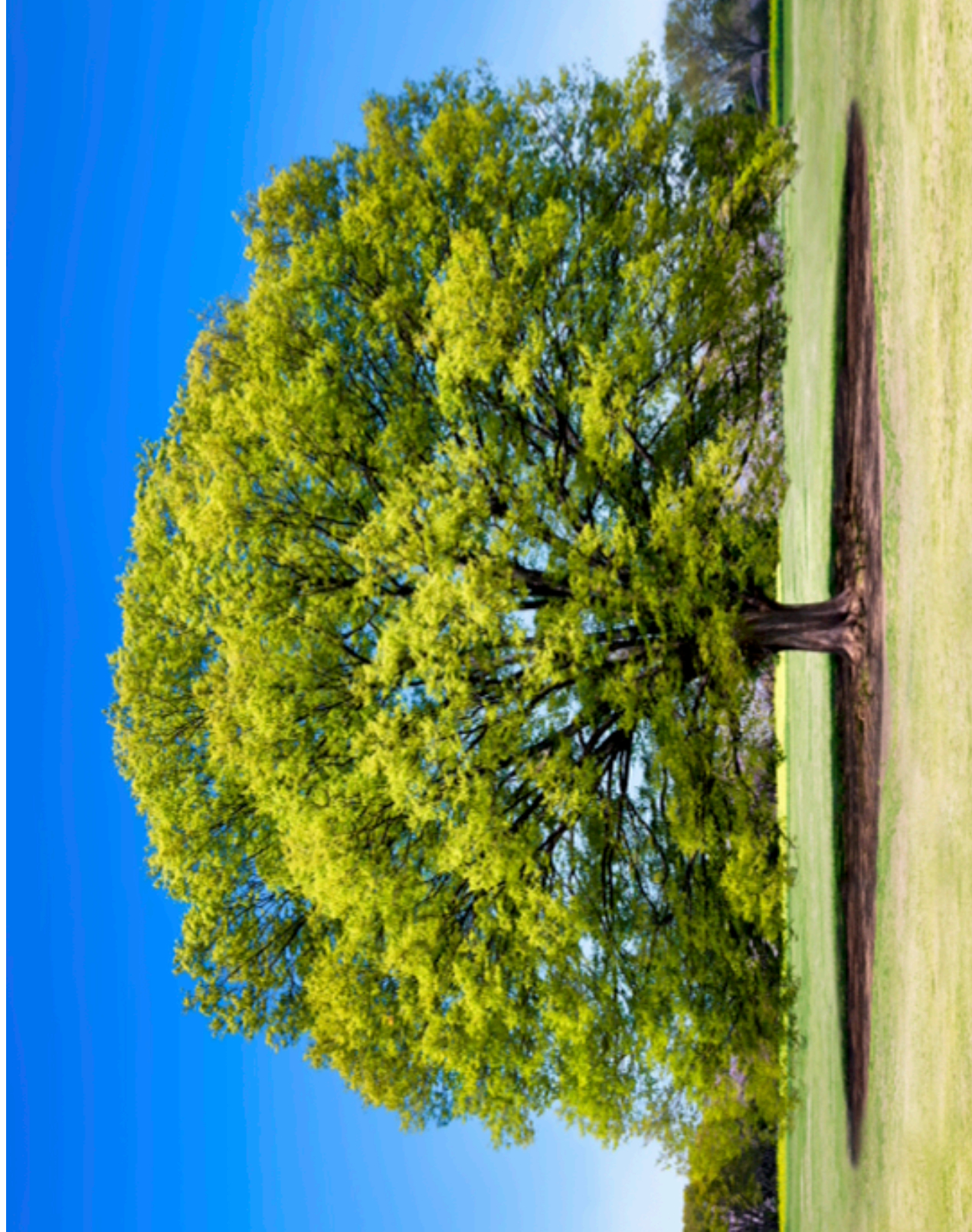
## Concept & story proposal

2024, July  
RISE DESIGN

## ハルニレ

北国の山地で、ニレの名で普通にみることができきる樹。新緑が美しい。関東ではエノキやケヤキがその位置づけになる。英名はエルム。温潤で肥沃な血を好む。平原や氾濫原に林を作る。「エルムの街」は肥沃な地が多い、と言われる。街路樹などでよく植栽される。

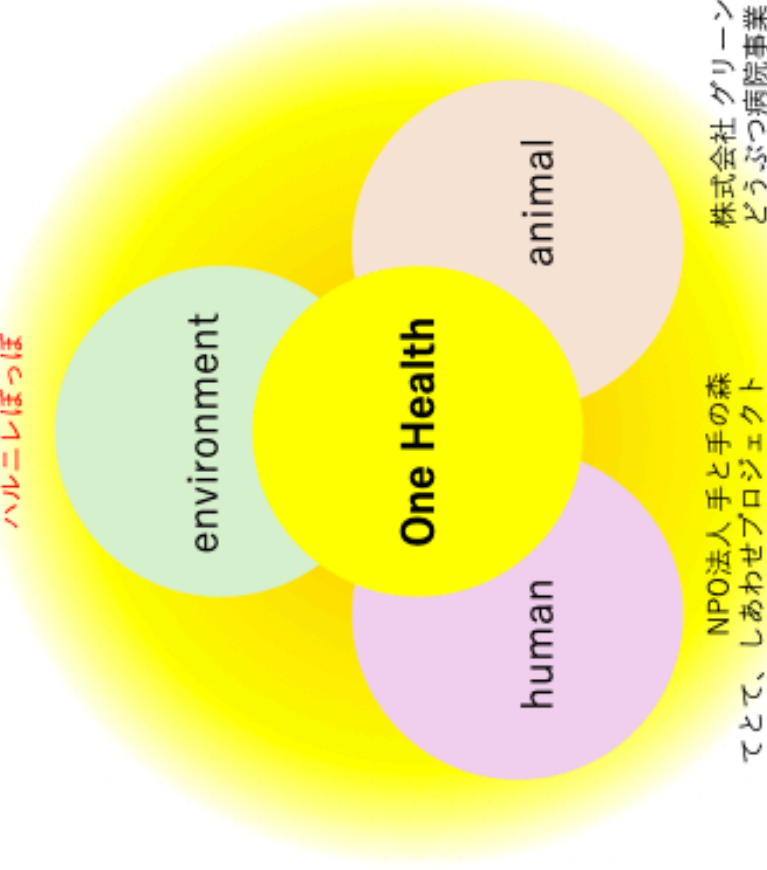
アイヌはハルニレをチキサ・ニ（「我ら・擦る・木」の意）と呼び、ハルニレ材を摩擦させる発火法で火を起こしていた。アイヌの伝承によれば、天地創造の折、地上に最初に生えた木はハルニレであり、そのハルニレにカンナカムイ（雷神）が恋をして落雷があり、起こった炎からアイヌの英雄神・オキクルミが生まれたという。



ハルニレの花言葉：「信頼」と「尊敬」  
アイヌの人々は、ハルニレを「神様が宿る木」として敬っていると言われている。

## 緑の森グループが担う事業とその役割について

合同会社 Green Shapers  
ハルニレぼっぼ



One Health を実現するための事業構造

緑の森グループがこれから目指すもの

どうぶつがどうぶつらしく、  
人もどうぶつも、自然の姿を取り戻す。

どうぶつ病院の枠を超え「治療」だけでなく、

「自然とともにあるライフスタイル」を提案。

### One Health

人とどうぶつ、環境の健康は相互に密接につながり、  
強く影響しあっている。

「One Health」は、**人・どうぶつ・環境の3つの健康をひとつの健康とみなし、守っていきこうとする考え方。**

緑の森グループが目指す「One Health」とは

**人と動物が幸せに暮らすまち 旭川。**

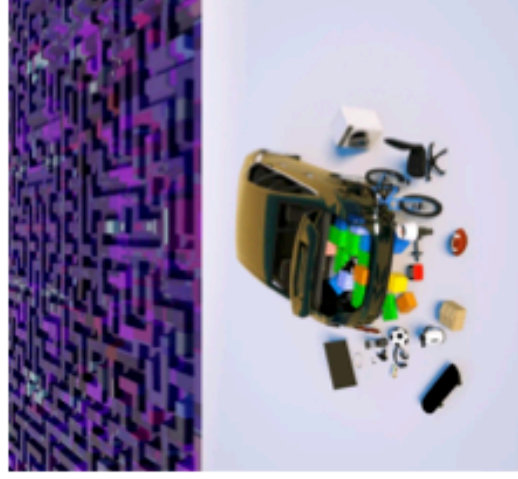
人と生き物と自然環境の関係性をリデザインしていくこと。  
人の都合でどうぶつ界、自然界を過剰に侵食することをやめて生き物たちの  
声の声を傾ける。

わたしたちは生き物であり、自然であること。地球はわたし自身であること。  
ミクロとマクロの視点から、医療×芸術×文化×哲学×歴史を見つめ直す。

今、わたしたちの住む世界はどうなっているのか。

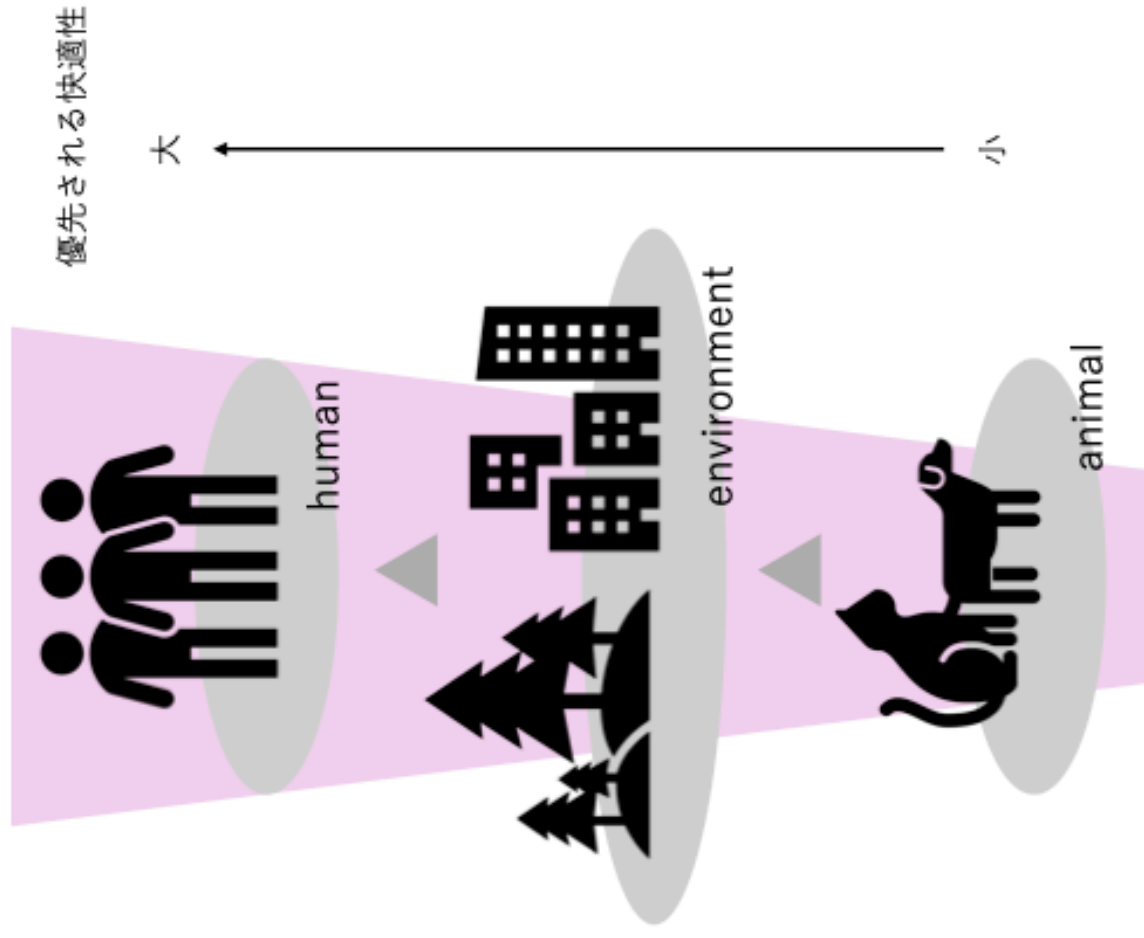
わたしたちは今、

「不自然」に生きているかもしれない。



工業化が進み、テクノロジーが台頭する時代。  
モノがあふれ、選択肢が増え、価値の多様化が進む一方で、膨大な情報  
が氾濫し、選択することの難しさが顕著となる。  
デジタルで生活が快適になる一方で、デジタルが引き起こす新たなな  
しみが生まれている。  
生活しやすい（物質的に）が、  
生きにくい（コミュニケーション）世の中。

いつもパソコンの前にいたり、スマホを常に眺めて、何者かを揶揄し  
て過ごすことが実は、不自然なのではないだろうか。  
そういう生活を続けているからこそ、精神疾患や生活習慣病が生まれ  
てきている。



社会は人の快適性を追求して形成されてきた。

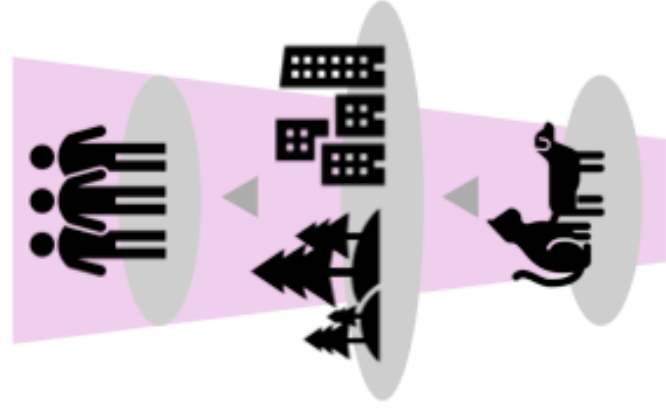
人が快適に暮らすために都市開発がなされ、森林を伐採し、アスルトを敷き、ビルが建てられてきた。また、自然は手入れされ、人にとって快適な「造られた自然」が出来上がり、結果動物たちの生活環境が破壊されてきた。

ハルニレっぽの姿とは？

# Return to original.

そう考えた時に、本来の姿として、自然の中にあるべきなのではないだろうか。  
自然と生命（いのち）の距離感をあらためて考えてみる。

わたしたちも、極論を述べるならば「動物」。



One Health, One Planet.

## Concept

# With your roots.

生活のなかで、わたしたちは自然からどんな恵みをもたらしているのか。その慣習は環境に、そして動物にどんな影響を及ぼしているか。それは回り回って、どのように自分たちに返ってくるのか？

わたしたちが生きていく上で、大切にしなければならぬもの、こと。

そのこたえは、「わたしたち自身」の中にあり、わたしたちが生きてきたこれまでの「生き方」の中にあり、それはすべての生命の源となる「自然」の中にあり、そこは、その自然がもたらしてくれる大きなエネルギーに満ち溢れているはず。

自分と向き合う。

自然と向き合う。

生命と向き合う。

自然と生命、そしてわたし。それぞれにとっての心地よい距離感と関係とは。お互いのために、そしてなによりそれぞれが「らしく」生きていくために何ができるのか。

その答えはきっと、あなたがあなたと「向き合う」ことで見えてくる。







## Action

どのように向き合うのか？

自然を舞台に、  
生きるという「感性」を、  
五感を使って磨く。

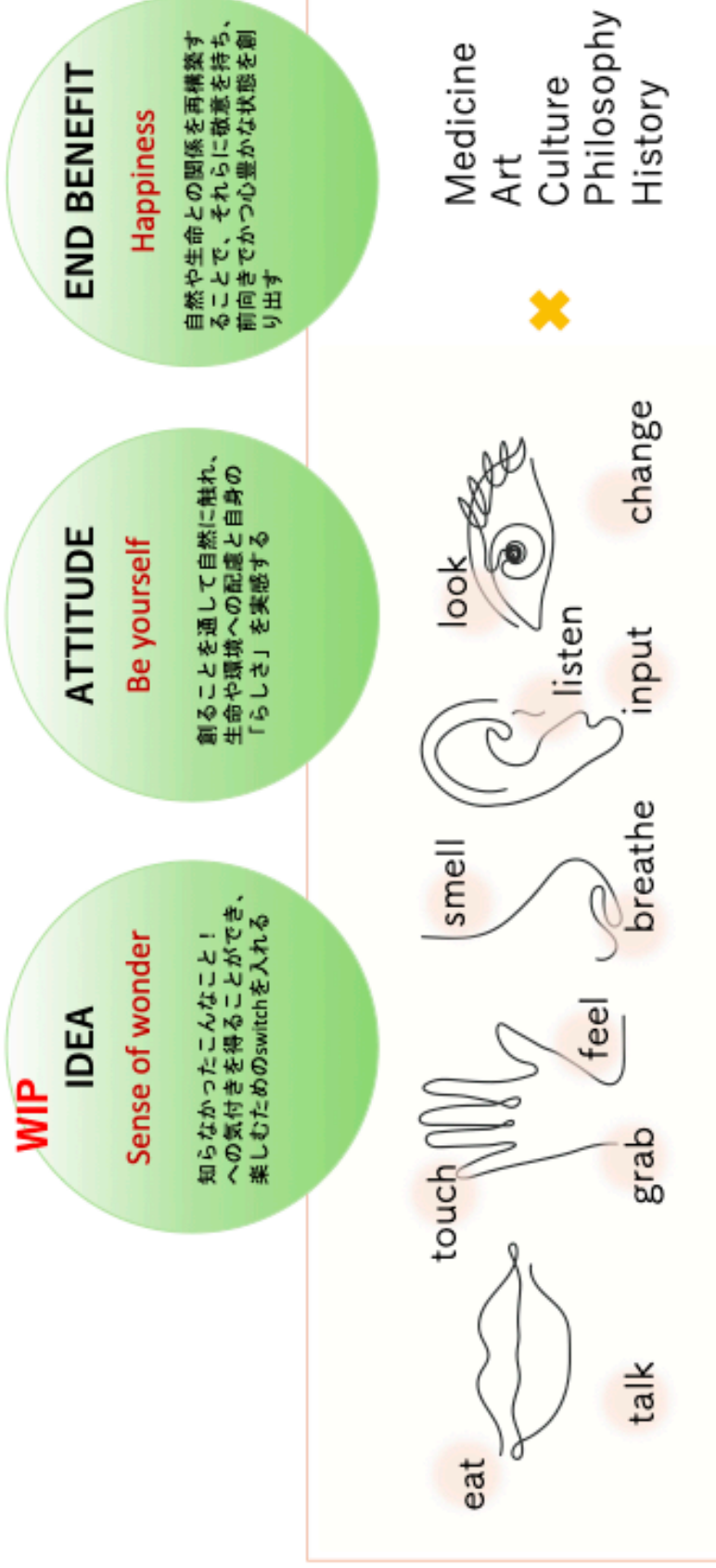
自然と生命にとって心地よい関係を築いていく上で重要な要素とは何か。  
どう考え、どう感じ、何を成すのかを見極める。

五感を使い、自分の本当に愛するモノ、コトを見極め、それらに囲まれた暮らしを  
実践してくまっかきかけを作るコトで、自身の人生の質を高める。

時に森として、時に動物として、直感的に心地よいと感じる瞬間。

自然を舞台に、

生きるという「感性」を、五感を使って磨く。



# デイスカッションにおけるキーワード

～ハルニレっぽっぽへ託す想い～

